

徳島大学の教育・学生の学びに与える Study Support Space のインパクト

本田剛士¹⁾、下村宗央²⁾、畑中唯菜²⁾、片山裕之³⁾、枝川恵理²⁾、亀岡由佳⁴⁾、吉田 博⁵⁾

1) 徳島大学理工学部 2) 徳島大学総合科学部 3) 徳島大学工学部
4) 徳島大学附属図書館 5) 徳島大学総合教育センター

1. はじめに

近年の大学教育において、学生の能動的学習が重視される中で、大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待されている（文部科学省 2010）。徳島大学附属図書館では、学生と教員、図書館職員が協働して、学生の能動的学習を促進、支援するための実践を行ってきた²⁻³⁾。本発表は、図書館における学習支援の取り組み「Study Support Space (以下 SSS)」が、徳島大学の教育・学生の学びに与えた影響について、アンケート調査をもとに考察し、明らかにすることで、教育・学習支援の在り方に対して示唆を与えるものである。

2. Study Support Space

SSS は学生の学習に関する相談に対してアドバイザーが対応する取り組みで、2013 年 4 月より実施している。アドバイザーは教職員、大学院生が務め、SSS の時間割に合わせて附属図書館本館一階のピア・サポートルームにて待機し、訪れた学生の相談に対応する。SSS を開設して以降、2016 年 9 月末の時点までの累計相談者数は 1254 名である（表 1）。相談内容は①学習相談が 860 件（69%）、②進路や課外活動等の学習内容以外の相談が 285 件（23%）、③その他の内容が 109 件（8%）である。相談内容を年度ごとに比較すると、学習相談の占める割合が年々増加傾向にあり、2016 年度は 9 割を超えている（図 1）。このことから、SSS は学生にとって、学習で行き詰ったり、疑問が生じた際に利用する場所であるという認識が強まっていることが分かる。一方、2016 年 7 月に実施した図書館利用者アンケート⁴⁾によると、SSS の認知度は約 63%であり、3 年前に実施した同アンケートとほとんど変化はなかった。

3. アンケート調査結果・考察

(1) SSS 利用者

SSS では 2016 年度前期の相談期間中、ピア・サポートルームにアンケート用紙と回収箱を設置し、学習相談を終えた学生を対象に、任意のアンケート調査を実施し、22 名から回答を得た。

「SSS を利用して満足しましたか（4 件法）」という設問に対し、全員から「満足」または「やや満足」の回答を得た。その理由について記述式で問うた結果、多く挙げられた意見として、「分からなかったことを理解できたから。」のように学習内容の理解が進んだという理由が 8 件、「丁寧に指導してもらえたから。」のように丁寧、親切であるという理由が 8 件であった。その他に、「大学生活が始まり、レポート作成に慣れていない私の悩みに親身になって応えて下さり（中略）このような質問できるコーナーを設けて頂くことが安心につながります。」や「質問とはまた違う問題点が会話中にできたりして、考えが深まったから。」という意見が挙げられていた。

以上の結果から SSS は、学生の学習に関する相談に対応し、学習内容の理解や定着を図るだけでなく、学習で困った時に利用できる環境が整っているということ自体が、学生に対し、ある種の安心感を与えていると言える。また、このように教職員や大学院生と身近に接する機会が設けられていることで、学生の学習意欲の向上や能動的学習への転換、視野の広がりなどに影響を与えていることが伺える。

(2) アドバイザー

2016 年 8 月に大学院生アドバイザー 3 名、2016 年 10 月に教職員アドバイザー 12 名を対象に、SSS の意義に関するアンケート調査を実施し、15 名全員から回答を得た。設問 1「SSS のアドバイザ

一を担当することで得られたこと、もたらされた変化などがあればお書きください。(記述式)」、設問2「SSSは大学図書館や徳島大学生にどのような影響をもたらしていると思いますか。(記述式)」の回答について、質問の意図に合う記述内容を分類した結果を表2、3に表した。

以上の結果からアドバイザーは、SSSで学生の相談に対応することで、授業内容の理解度や考え方、悩み、どこで躓くのか等を把握することができるようである。また、様々な学部の学生が訪れるため、他学部や他の教員の授業課題等を知ることも可能になっている。これらは教員アドバイザーにとって自身の授業へのフィードバックに役立つものであり、SSSでの対応はアドバイザーにとっても利点があることが伺える。また、大学院生アドバイザーは後輩に教えることで、知見が広がったり、思考の整理に繋がったりと、自身の学習理解にも影響を受けるとともに、やりがいも感じていることが分かった。

加えて、このSSSを教員の研究室ではなく、学習のためのリソースが揃い、多くの学生が学習のために利用する大学図書館で行うことは、環境条件からも理にかなっており、教員を身近に感じられることから学生にある種の訪ねやすさ、聞きやすさといった安心感を与えていると考えられる。

4. まとめ

以上の考察より、SSSは利用している学生だけでなく、相談に対応するアドバイザーにも影響を与えており、その結果、教員の授業の質や学生の学習の質向上の一助となっていると言える。SSSは学生の学習相談に対応する取り組みであるが、大学における教授、学習の幅広い面に対して、影響を与えている。大学における教育の在り方、学生の学習の在り方が問われ、教育改革の重要性が指摘される今日において、SSSのように学生の学習を支える取り組みは重要であると考えられる。SSSをより機能させていくためには、SSSが広く学生に認知され、多くの学生が利用する状況を作り出す必要がある。今後は、SNS等を利用した新たな広報も取り入れ、充実を図る予定である。

表1 SSSの累計相談者数(2016年9月末現在)

年度	実施日数	前期相談者数	後期相談者数	累計相談者数
2013	153日	210名	142名	352名
2014	151日	180名	214名	746名
2015	150日	150名	139名	1035名
2016	75日	219名	—	1254名

表2 得られたこと・もたらされた変化

内容	記述数
学生の学習の様子・理解の状況・学生生活等が分かった	11
自身の授業・学習へのフィードバックが得られた	5
他の教員の授業の様子・課題・方針等が分かった	3

表3 大学図書館や徳島大学生への影響

内容	記述数
学生が安心して学習に関する理解を促進し、疑問や躓きを解消することができる	6
学生が大学教員・大学図書館を身近感じることができるようになる	6
学生の学習の質向上・大学教育のパラダイム転換に貢献	2

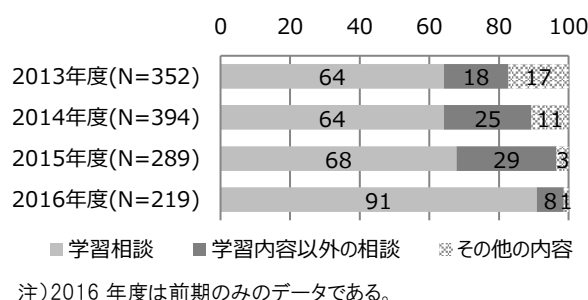


図1 年度ごとの相談内容の推移(%)

参考文献

- 1) 文部科学省(2010)「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301607.htm (2016.11.4.)
- 2) 下村宗央ほか(2016)「学生と図書館職員の協働による学習支援の実績と将来展望」, 平成27年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 26-27.
- 3) 片山裕之ほか(2014)「学習スタイルの向上・改善を目指した学生と図書館職員の協働による実践の成果と課題」, 平成26年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 24-25.
- 4) 徳島大学附属図書館(2016)「平成28年度附属図書館(本館)利用者アンケート実施報告」, http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/guide/qanda/pdf/enquete201607_m.pdf (2016.11.4.)